

第十四課

立つて祈るとき、赦してやりなさい

祈りと愛

「また立つて祈っているとき、だれかに對して恨み事があつたら、赦してやりなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してください。」

(マルコ一・二五)

このみことばは、「祈つて求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります」という大いなる祈りの約束の直後に続いています。祈りにおいて、すべてが神に對する私たちの關係にかかっていることは、すでに学びましたが、それに続くこのみことばは、他の人に対する私たちの關係もまた、やましいところがあつてはならないことを教えています。神に對する愛と隣人に對する愛とは不可分のものです。神に對しても人に對しても、心によましいところのある人の祈りは、決して勝利を得ることがありません。信仰と愛は、互いに不可欠なものです。

これは、イエスが折にふれて言われたことです。主は、山上の説教で、六番目の戒めをお語りになり、兄弟との関係が正常でないなら、御父への礼拝は受け入れられないことをお教えになりました。「だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。」そして、後に、神への祈りについてお語りになった時、「私たちの負いめをお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました」とお教えになり、祈りの終りに次のように付け加えられました。「しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。」情容赦のないしもべのたとえ話の終りのところで、イエスはこうも教えられています。

「あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。」そして、いちじくの木のかたわらのこの場所ですばらしい信仰の力と信仰の祈りについてお語りになった時、突然、それと関係がないと思われるような考えを持ち出されました。「立って祈っているとき、だれかに対して恨み事があつたら、赦してやりなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してください。」人に対する愛の律法に従順であることは、祈っている人々にとっても大きな罪であり、それが彼らの祈りの弱さの最大の原因であることに主が気がつかれたのは、ナザレとその後の生活でのことのよ

うに思えます。また、主は私たちを導いて、主御自身の経験にあずからせることを望まれているように思えます。すなわち、私たちが神の愛される者を愛し、そのために自分をささげたという意識ほど、神に近づく大きな自由を与えるものではなく、また神を信じる力を与えるものはないという御自身の経験にあずからせてくださるかのようには思えるのです。

ここで教えられている第一の教訓は、赦すことがみことであるということです。私たちは、「赦してください。私たちも赦しましたから」と祈ります。聖書は、「神がキリストにあってあなたがたを赦してください。互いに赦し合いなさい」と言います。神の完全で自由な赦しが、他に対する時の私たちの規範となるべきです。そうでないと、私たちのいやいやながらの本気でない赦しが——それは、とうてい赦しと言えるものではありません——私たちに對する神の赦しのありかたとなってしまうでしょう。あらゆる祈りは、神の赦しの恵みを信じる信仰にかかっています。神が私たちの罪に従って扱われたとしたら、聞いていただける祈りなど一つもないでしょう。赦しは、神の愛と祝福に至る戸を開くものです。神が私たちすべての罪を赦してください。さったからこそ、私たちは、必要なものをいただけるまで祈り続けることができます。祈りが答えられる深い確かな土台は、罪を赦してくださいと神の愛です。その愛が心を支配する時に信仰の祈りができます。また、愛の生活ができるようになるのです。愛のうちに示された神の、罪を赦す御性質が、私たちの性質になります。神の赦しの力が私たちに注がれてうちにとどまる時、

次に、第二の、もっと一般的な教訓があります。それは、この世における日常生活は、祈りにおける神との交わりの試金石になるということです。クリスチャンは祈る時に、自分に最もふさわしいある種の祈りの気分を作ろうとし、できるだけ努力をします。こういう信者は、人生

が、ばらばらの部分を集めたものではないこと、そしてそれを都合によって取り出せるようなものではないことをよく分っていないか、または忘れているのです。人生は一つのもので、神は、私たちの日常生活における気分によって、祈りの時間の敬虔な気分を判定されます。祈りの生活は、日常生活のほんの一部を占めるにすぎません。祈る時の感情ではなく、日常生活においてどのようなか、何を求めているかということが神の判断の基準になるのです。私たちが神に近づくことと、人々やこの世と交わることは一つのもので、一方で失敗するなら、もう一方も失敗します。隣人と自分との間に、はっきりと意識できる悪感情が存在しないとしても、愛の欠けた思いやことばをそのままにしておくだけで、祈りは妨げられます。効果のある信仰の祈りは、神のみこころと愛にさきげ切った生活から生れるものです。祈っている時の、このようでありたいという努力によってではなく、祈っていない時の状態がどうかということでは神は私の祈りを取り扱われるのです。

以上のことをまとめ、第三の教訓を学ぶことができます。人々に対する私たちの生活において、愛がすべてとなるということです。赦す心は愛の心から生れます。神が愛であられるから、お赦しになるのです。神の愛にとどまる時に初めて、神がお赦しになるように赦すことができます。また、私たちは、兄弟を愛することによって、御父に対する愛を持っていることを証明するのです。これが、神の前における信頼の基礎であり、祈りが聞かれる確信です。「行ないと

するのです。これが、神の前における信頼の基礎であり、祈りが成る基礎です。

真実をもって愛そうではありませんか。それによって、……神の御前に心を安らかにされるのです。……もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、また求めるものは何でも神からいただくことができます」(ヨハネ三・一八―二二、参照四・二〇)。自分のうちに愛がないなら、信仰も行いも役立ちません。私たちを神に結びつけるのは愛であり、信仰の事実を証明するのも愛です。マルコの福音書一章二四節の大きな祈りの約束に先立って、「神を信じなさい」というみことばが不可欠であったように、このヨハネのことばの後にある、「人を愛しなさい」ということばも不可欠なものなのです。天におられる生ける神と、私たちの周囲に生きている人々に対する正しい関係が、効果ある祈りの条件です。

この愛は、私たちが人々のために労し、祈る時に特に重要です。私たちは時々、キリストに対する熱心さ、また、自分自身の霊的健康のために献身しながら、自分が求めているたましいのために献身的愛を持つとうとしないことがあります。それなら、私たちの信仰が弱く勝利が得られないとしても、当然でしょう。あわれな者を、——その者がどれほど愛しくいように思われたとしても——失われた羊を求める羊飼いであるイエスの優しい愛の光をもって見、その人のうちにおられるイエス・キリストを認めて、キリストのゆえに真実と愛の心をもって受け入れることが、信仰の祈りと実を結ぶ努力の秘訣です。イエスは、赦しについてお語りになった時、愛こそが赦しの根本であると言われました。山上の説教において、主は、祈りに関する教えと約束を

天の御父のあわれみと結びつけておられます（マタイ五・七、九、二二、三八―四八）。ここでも、愛の生活が信仰の祈りの条件となっています。

信仰の祈り、あるいは、信仰によって祈ろうとするまじめな努力ほど、私たちの心を試すものはありません。神が祈りをお聞きにならないのは神だけが御存知の理由によるのだというような考えで、自らを省みる気持をにぶらせないようにしましょう。「求めて得られないのは、誤った求め方をするからです。」私たちは、みことばによって探っていただきましょう。私たちの祈りが、実際に、神のみことと人々への愛に完全にささげ切った生活からの発言となっているかどうかを確かめましょう。信仰が根を張り、成長をする唯一の土壌は愛です。私たちの信仰が天に向かつて手を伸し、心を開く時、御父は、それが悪い者や価値のない者にも開かれているかどうかをご覧になるのです。完全な愛というものではないが、はっきりした目的をもって真実をもつて従う愛によってのみ、信仰は祝福を得ることができるのです。自分のすべての祈りを聞いてくださる愛なるお方を信じる力を自らのものとする人は、神の愛を自分のうちに受け入れ、日常生活の中で神が愛されるように愛を実践する人です。神の王座の真中におられるのは小羊です。祈りによって神に迫るのは、苦しみと忍耐に満ちた愛です。あわれみ深い者はあわれみを受け、柔らかな者は地を相続します。

恵み深い御父よ。あなたは愛でられます。愛のうちにとどまる者だけがあなたのうちにとどまり、あなたと交わりを持ちます。恵み深い御子は、きょう、祈りにおける交わりにおいて、このことがいかに真実であるかを深く教えてくださいました。ああ、神よ、聖霊によって私に注がれたあなたの愛が、まわりにいる人々への愛の泉となり、愛の生活から、信仰の祈りの力が湧き上がりますように。ああ、御父よ、聖霊によって体験させてください。私のまわりにいる人々への愛の生活が、私の神への愛の生活の入口となりますように。私を傷つける人がだれであっても、喜んでその人を赦すことができますように。あなたの赦しが私にとって力でありいのちであることを証明してください。

主イエスよ！ 私の恵み深い師よ！ 赦すこと、愛することを教えてください。血潮の力によって私の罪の赦しが現実のものとなり、あなたが示され私が他の人に示した赦しが天の喜びとなりますように。他の人との交わりの中で、あなたとの交わりの妨げとなるものがありましたら、何であつてもお示しください。家庭にあつても、社会にあつても、私の日常生活が、信仰の祈りをささげるために必要な力と確信を得る学校となりますように。アーメン。